

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	齋藤 有 【人間発達科学専攻 平成23年度生】	<p>本論文は、絵本の読み聞かせ方により幼児の反応や理解がどう異なるのか、実際の読み聞かせ場面を観察もしくは実験的に操作し、詳細な関連性を追究することにより、幼児の自発的な学びにつながるような絵本の読み聞かせ方について考察している。具体的には、幼児期に絵本を読み聞かせる場合に、大人がどういう関わり方をすると子どもの自発的な関わりを高めるのかを、養育態度の特徴、子どもの年齢、母親の子どもの発言への反応の仕方との関連性から、母親の子どもへの読み聞かせ場面の観察調査によって実証的に検討した。さらに、子どもが幼児期後期になるにつれ、母親の子どもへの絵本読み聞かせ時の朗読外発話が母子ともに減り、朗読のみになっていく点に着目し、年長児への読み聞かせ時の、朗読の仕方を実験を行い、朗読の仕方と物語理解の度合いの関係を検討した。審査委員会では、本論文が示唆した以下の2点を特に評価した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実際の絵本読み聞かせ場面時の母子のやりとりの過程を丁寧に調べ、従来具体的なやりとりのレベルでは示されることのなかった、絵本読み聞かせ時の子どもの発話に対して母親がどう反応すると、その後の子どもの絵本に対する自発的な発話や関わりが増えるのかに関して、具体的な行動レベルで示している点。</li> <li>2. 絵本の朗読の仕方によっても、子どもの絵本の物語の登場人物の心情に関する理解や、関心の示し方が変わってくる可能性を実験的操作により、実証的に示している点。</li> </ol> <p>本論文に対する審査は、平成25年12月18日(水)、平成26年1月8日(水)、平成26年2月5日(水)に行われ、平成26年2月20日(木)に公開発表と最終審査試験が行われた。第1回審査会では、調査結果や論文の意義は評価されたが、論旨の流れがよくない部分があること、先行研究との関係性がわかりにくいことが指摘された。第2回、第3回の審査会では、これらの問題に対して適切に修正がなされたことを確認した。公開発表では、丁寧な説明がなされ、質疑に対しても十分な回答を行った。</p> <p>以上の結果に基づき、本審査委員会では、本論文がお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士(人文科学)、Ph.D. in Psychologyを授与するのにふさわしいと判断した。</p>
論文題目	幼児期の絵本の読み聞かせ場面における 大人の関わりに関する研究	
審査委員	(主査) 准教授 上原 泉	
	教授 石口 彰	
	教授 内藤 俊史	
	教授 菅原 ますみ	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 ( 可 ・ <b>否</b> )</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><b>ウ.</b> 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	